

3.2 特徴

- 1) ア・ラ・カルト方式...学社協働体は、個々の活動体制が異なり Web 教材の制作内容も多種多様であることと総合学習ほか発展・応用学習を想定し、学校の指導計画に応じ「学校実践テーマ」を選択実施できる方式である。
- 2) 学習情報検索視点の多重化...学習者が持つ学習情報検索の視点は、教材制作者が意図する視点と同一ではない。視点を変えた重複掲載、学習情報間の関係図、教材全体の検索等による検索視点の多重化を施してある。
- 3) プッシュ&プルの学習情報提供...Web 教材の一時的利用脱却と教育現場への定期的な学習情報配信、総合学習等への普及目的でメールマガジンを配信してのプル型の Web 教材と併せたプッシュ&プルの学習情報提供である。

4. 実践

4.1 学校実践テーマ

特色ある教育活動の総合学習や発展学習の指導計画は、学校により多種多様となる。「学校実践テーマ」は、このような学校事情に対応するためテーマごとの概略・ねらい・準備・資料 Web 等を解説表にまとめ Web 化し公開して、学校が選択する方式をとっている。それはまた、指導計画への盛り込み易さや充実の支援および共同・交流学习の共通理解を図る目的でもある。図 4 は、解説表 Web の例である。

4.2 小学校の実践事例

新潟県新津市立小合東小学校 5 年生では、4 年生時の社会科「新津郷の開発」、総合学習「新津の水を調べよう」、5 年生社会科「日本の稲作農家」を受け発展させた総合学習「小合東米作り調査隊」を実施した。その指導計画の中でホテルをめぐる環境学習と合わせて「新潟はどうして米どころなの？プロジェクト」で「学校実践テーマ」が指導計画に盛り込まれた。(図 5)

この実践は、班編制で個々のテーマを設定し、関係機関・企業・店舗・農家への取材による加工品調査・年表作り・統計データ調査の他に地域住民への取材により民話・祭り・伝統行事・食・わら細工等の地域文化を探り、米どころとしての歴史的経緯を振り返ることと水路・河川の生物調査と合わせ地域と環境を学習するものである。

また、取材において Web、交流学习用 BBS、ビデオ、デジカメ、データベース、電子メール、定点観測(ライブカメラ)、温度記録計等を積極的に活用したため情報教育的側面を持つ実践でもある。

5. まとめ

本プロジェクトは、教師・地域・専門家で構成する学社協働体を形成し情報連絡・交換手段としてメーリングリストを用い、資料性を持つ「企画特集」において稲作農業県として新潟県の持つ貴重かつ豊富な人材・資料・知見を活かして取材制作した成果および総合学習・社会科等の実践活動案としての「学校実践テーマ」を策定し、学校事情に即す形で実践活動した成果をもって、新学習指導要領の実施とインターネット導入による学習形態の新展開に見合う、稲作とくらしにかかわる Web 教材「こめのくに」を制作し公開・供給するプロジェクトである。



図 4 「学校実践テーマ」の解説表 Web の例



図 5 総合学習の活動を伝える Web (小合東小学校)